GAOT
Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人
群馬県作業療法士会ニュース
「からっ風通信」　第146号　2021年11月発行

巻　頭　言

第23回 群馬県作業療法学会の開催について

第23回作業療法学会実行委員長　**今村雄二**

今学会の開催に至って、コロナ禍の中、１年延期とした対応をとり、ハイブリッドで何とか対面での研修も模索している中、緊急事態宣言が再発出。完全ＷＥＢ形式での開催に決定するに至りました。準備にあたり手探りの部分が多く、実行委員、学会支援グループの力を借りて何とか形にできてきたかと思います。運営準備においては、対面で行っていれば即時解決できるようなこともメール等でのやり取りでタイムラグができる、対面で生じる雑談からの親睦が少ないなどの短所の反面、会議への移動時間が少ないため参加しやすい、研修会議に関しては逆に参加がしやすくなるなどの長所など様々ありました。運営に関し至らない点などあるかと思いますが、温かい目で参加いただけたらと思います。

今回は事前収録での講演が多いので意見交換の場が少なくなってしまいますが、御高名な先生の講演、現場での実践している方々のご講演と内容は充実しております。ご自宅からのご参加の方が多数いらっしゃると思いますのでゆったり、じっくりと聞いていただき臨床の現場に落とし込める内容を吸収していただける場になるかと思っております。たくさんの皆様のご参加いただき、今学会が皆様の臨床現場の力になることを切に願っております。

特集記事!!

今月号の特集は、群馬県立障害者リハビリテーションセンター（以下、当センター）を利用されていた障害者の方にお願いし、リハビリテーション（以下、リハ）の現場に向けた思いや願いをご本人自らパソコンで記して頂いた。個人的ではあるが、当事者と支援者が“歩み寄り”、目標を共有することについて改めて考えさせられた。ご本人の意思が反映するように可能な限り原文のまま掲載したが、一部加筆・修正したことはご容赦願いたい。なお、今回の特集に関して、匿名のもとご本人から同意を得ている。

当センター自立訓練についてはHP（http://gunma-reha.jp）を参照されたい。

群馬県立障害者リハビリテーションセンター　髙橋洋輔

「ある障害者からの願い」

私は、2年ほど前に脳梗塞を発症し、リハ専門科のある病院で、回復期を少し過ぎる頃まで機能（回復）訓練を行った後、当センターにおいて、1年6ケ月間の自立訓練（機能訓練）を行い、今年退所しました。

回復期の機能（回復）訓練では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、および関係スタッフのみなさんには、献身的な対応をしていただきました。車椅子の生活になりますが、自立した生活を家で過ごせるまでになりました。皆様には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

2年間に及ぶリハ中心の生活において、感じた疑問、要望などを取りまとめてみました。リハが障害者に希望をもたらすことを願っています。

❖機能回復「6か月の壁」

リハは、発症直後の急性期の段階から実施され、回復期では歩行など、日常生活動作の確立を目標に実施される。しかし、身体の基本的な動作・機能を回復させる理学療法は、脳血管疾患の発病から回復期末までの6ケ月を過ぎると、回復力は急激に低下する。専門病院にてリハは集中的に行われるが、「6か月の壁」を知らないことで、患者に後悔が残らないようにしてほしい。

※急性期（治療段階；1～2ケ月）、回復期（本格的なリハを受ける段階；3～6ケ月）

❖自分に起きている真実を教えて

手足が動かない、喋りにくい、食事ができない等は、患者自身で認識できることもあるが、（経験的なことを踏まえると、）自分では正しく理解されていないことが多いと思う。特に認知機能に障害が起きた状態の高次脳機能障害は、障害名も含め障害の内容を認識している人がほとんどいないと思う。

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は、各リハで機能回復を効果的に高めるために、患者に起きている障害の内容等をきちんと伝え、患者と療法士が共通の目標をもって取り組むことが重要である。

❖専門技術者の配置

基本的なリハには、理学療法（身体の基本的な動作・機能の回復）、作業療法（食事や入浴など日常生活に必要な機能回復）および言語聴覚療法（嚥下や話す・聞く・読む・書くなどの機能回復）がある。

急性期・回復期が過ぎて維持期に入った利用者が通う施設によっては、作業療法士の方が言語聴覚士も兼務しているところもある（それぞれの諸事情を踏まえた対応と考える）。利用者は限られた時間の中で各療法士の指導等を受けることになる。兼務することで作業療法士と言語聴覚士の訓練を効率的・効果的に行うのには双方に無理が生じるため、維持期においても言語聴覚士の配置が望ましい（注：筆者の考えでは、県内就労支援事業所のOT配置も少ないと言える）。

❖高次脳機能障害者等によるグループ討議（訓練）

高次脳機能障害は、認知機能に障害が起きた状態であるため、外見上からはどのような障害があるのか分かりにくい。また、当事者も起きている障害を理解できずに、ストレスを抱えている。

当センターのグループ討議では、高次脳機能障害による障害の名称と内容、ストレスに強くなる習慣、障害との付き合い方など、具体的な事例などを交えて紹介された。参加者は自分の意志に基づき、おかしいと感じている動作や感覚（認識）などを話すことで、自身の障害を理解できるものと考える。また、参加者がそれぞれに抱えている「不安」、「疑問」と「考え方」などを共有することで、参加者は「自分だけじゃないんだ」との安心感が得られ、前向きに障害を軽減するための取り組みが実践できるものと考える。

【この方の基本情報】
・60歳代男性
・障害状況：高次脳機能障害（失語症、注意機能低下）、運動機能障害（片麻痺、嚥下、視覚）
・現在の暮らし：在宅生活（車椅子）、デイサービス

当センター概観

今年から再開した地域清掃活動（自立訓練）

担当ＯＴからの一言　『こんなところがリハで良くなった』

❖自立生活を実践したリハにより、家族への介護負担が軽減できたものと考えています。

①（移動訓練による）体力の向上
②構音障害の改善とコミュニケーション能力の向上
（相手に聞き返されることがほとんどなくなった）
③車椅子のスムーズな操作
④上下着替え
⑤手擦りを使ったトイレ
⑥手擦りを使った入浴
⑦洗濯物を干して収納
⑧部屋の整理・掃除
⑨障害理解が進み、自身の状況についてプレゼンが可能

第12回 ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時：２０２２年１月中旬
13:00～16:00（オンライン配信）
＊この講演会は一般社団法人日本損害保険協会の助成を受けて実施致します。

群馬県の高次脳機能障害への支援

1. 講演

【群馬県での支援の取り組み】 講師：群馬県担当者

【地域生活支援「繋ぐ」】 講師：繁野 玖美 先生
（高次脳機能障害専門作業療法士）

【当事者・家族の思い】

家族と宮永和夫先生の対談	アドバイザー・宮永和夫先生 （南魚沼市病院事業管理者、精神保健指定医、精神保健判定医、日本老年精神医学会専門医）
当事者と山口智晴先生の対談	アドバイザー・山口智晴先生 （群馬県医療福祉大学）

2. まとめ

登壇者：山口智晴 先生（群馬県医療福祉大学）
高橋洋輔 先生（群馬県立障害者リハビリテーションセンター）
碓井祐太郎 先生（前橋赤十字病院
群馬県高次脳機能障害支援コーディネーター）

本講習会は、新型コロナウイルス感染対策のため**オンライン講習会**といたします。　お申込み、聴講方法の詳細は裏面をご覧ください

■主催：ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会
■後援（予定）：群馬県　上毛新聞社　群馬県医療ソーシャルワーカー協会
群馬県精神保健福祉士会　NPO法人ノーサイド

「第11回ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会」に実行委員として参加して

群馬県立障害者リハビリテーションセンター
高橋洋輔

昨年12月5日に行われた「第11回ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会」に実行委員として参加しました。この度はコロナ禍の影響でオンライン配信となりました。

本講習会は、日本損害保険協会が自動車事故被害者対策の一環として運営されています。その助成を受けた実行委員会は、県内で高次脳機能障害支援に積極的に取組む、多職種から成るボランティア集団です。これまで先進的な取組みを行ってきた、県外や県内地域で活躍される講師を招き、参加型の講習会を企画してきました。

今回は「当事者・家族のより良い社会生活に向け」た基調講演やシンポジウムでした。基調講演は、「高次脳機能障害の就労と評価」と「～群馬の高次脳機能障害の今後を考える話題提供と題し～」の二本立てでした。前者は、南魚沼市病院事業管理者であり「当事者と家族と支援者の会NPO法人ノーサイド」の顧問である、宮永和夫医師、後者は長年都内で当事者・家族の支援に携わり、ぐんまで起業を考えている、繁野玖美OTの講演でした。いずれの先生も非常に群馬になじみのある方々で、本気でぐんまのことを考えていることが画面越しながらひしひしと伝わってきました。宮永先生は、「就労」の観点から幅広い視点で、当事者・家族そして支援者へ熱きメッセージを伝えて下さり、今後の展望を交えて分かりやすく解説して頂きました。繁野先生は、経験豊富な“高次脳機能障害専門作業療法士”であり、自らの経験と鋭い分析によりぐんまの課題を洗い出し、その課題への対応策を惜しみなく提案して下さりました。

シンポジウムでは、長年ノーサイドの副理事長として当事者・家族に関わってこられ、県士会副会長でもある、山口智晴先生をコーディネーターに上述の先生方を交え行われました。ぐんまの「これからに必要な支援」について、以下の点が挙がりました。

①高次脳機能障害は長期間の支援が必要
②現状、県内に支援／理解者が少なく、地域の中で支援の「受け皿」が必要
③ネットワークの形成と行政による支援が急務
④県内の実態把握ができておらず、調査が必要

そして、「質問コーナー」では事前に質問を受けており、それに答える形で以下の点が話し合われました。

①医療機関で診断と説明が未だ十分になされていない実態がある
②まずは医療関係者が歩み寄り、「家族会」に参加してみる等当事者・家族と話し合おう
③就労支援（生活期リハ）は、まず生活の安定、体力・コミュニケーションの向上から開始し、焦らず徐々に関係機関へ繋げていく、当事者の障害理解を高めていく作業

結果、さまざまな領域・職種に視聴され、その数が120名程度まで上り、この支援に対する関心の高さが伺える形で講習会は幕を下ろしました。県民が一丸となり“ノーサイド”で取り組むならば、これからの群馬へ「夢と希望」が湧いてくる講習となったのではないでしょうか。最後に、コロナ禍の中大変厳しい運営を迫られましたが、ノーサイドの方々が中心となり、無事乗り越えられました。この場を借りて感謝申し上げます。

※今年は1月中旬頃に12回目の講習が予定されています（“暫定”チラシ参照）。
今年度はさらに踏み込んで、当事者・家族・支援者・行政それぞれの思いと考えについて発信していく予定です。
詳細は県士会HPやメーリング配信等で載せていこうと思いますので、ぜひ皆様のご参加をお持ちしております。

群馬県作業療法士会 令和2年度第4回理事会議事録

日　時：2021年7月21日(水)19:00 ～ 22:00
Zoom使用でのリモート会議
参加者：新井、関根、山口、柴田、石森、市川、今村、小此木、勝野、高坂、長谷川、村井、山浦、李、高橋、小林　16名

Ⅰ.会長より

新理事2名が加わり新体制となりました。今後は各支部毎に小さな県士会となるよう、各ブロック内で各地域ごとに連携していくことが必要となる。
また対面で行わないことが当たり前になってきた。良い点、悪い点がある。会の前後での雑談が情報共有になるなど良い事もたくさんあった。ポストコロナになった時に活動や会費が適切か？先々を見据えた活動を考えていかなければならない。県士会のあり方を考えていく時期にきている。

【審議事項】

1）福祉用具に関する特設委員会の設置について
協会より福祉用具に関する問い合わせがあり、今後他から問い合わせがあった際の窓口としても必要と考え、特設委員会を設置したい。

→ 賛成多数にて「福祉用具委員会」を設置する。委員長は柴田副会長、担当理事として石森理事、村井理事に行っていただく。

Ⅱ.各部議事

1.教育部［報告者:勝野］

【報告事項】

1）ブロック長会議　コロナウイルス流行のため、メールで随時審議を実施。

【検討議題】

①令和3年度 研修会予定
・現職者共通研修(平日にナイトセミナー形式で実施)
「作業療法における協業・後輩育成」
→ 講師：都丸理事　時期：7/19　参加者：39名
「職業倫理」→ 講師：長谷川OTR　時期：2/16
「実践の為の作業療法研究」→講師：李理事　時期：8/20
「作業療法の可能性」→ 講師：山口副会長　時期：11/11
「日本と世界の作業療法の動向」
→　講師：新井会長　時期：12/15を予定
「事例報告と事例登録」→講師：近藤OTR　時期：10/13
・現職者選択研修(発達障害領域)
2022/1/30(日)にzoomによるオンライン開催。
各講師の公文書作成中。
・新人症例発表会
2021/9/26(日)にzoomによるオンライン開催。
発表者は39名予定（1名抄録提出後に辞退あり）。
現職者共通研修「事例検討」として20名聴講者を募集中。
新人症例発表会申込締切日：2021/4/21
査読希望者抄録締切日：2021/5/19
抄録締切日：2021/6/16
スライド締切日：2021/7/21
新人症例発表会の優秀演題者への表彰(賞状の郵送)を福利厚生部と協力して進めたい。
・研修会支援
発達支援推進Gが今年度初めてZoom研修会を開催するため、支援の依頼があった。

研修会報告
1）現職者共通研修「作業療法生涯教育論」
日時：2021/5/26　19：00～20：30　講師：柴田局長
参加者：24名(会員：24名、非会員：0名)
2)現職者共通研修「保健・医療・福祉・地域支援」
日時：2021/6/28　19：00～20：30　講師：真塩部長
参加者：26名（会員：26名、非会員：0名）

【審議事項】なし。Zoom研修会の謝金について

2.広報部

【報告事項】

1）公益事業グループ
・ コロナ禍の為対面でのイベント関係は実施できておりませんが、部会を実施しオンラインも含めて広報企画を検討するために情報収集、アイデアを練っています。またLINEグループを作成し情報交換、共有がしやすい体制とし今後の活動を検討していきます。
2）ニュース編集グループ
・現在7月号の発行準備中で、印刷段階に入っています。高次脳機能関連での連載が継続しており、他機関の方から好評も頂けています。次回は10月号となり，9月中旬頃までに掲載するものがあれば送付をお願い致します。
3）広報企画グループ
・部会を踏まえリーフレットの改定に向けた活動を行います。

【審議事項】なし

3.地域局

1）西毛ブロック［報告者：山浦］

【報告事項】

①第2回医療介護連携フェスティバルin高崎について
・ 概要：今年度はオンデマンド、オンライン形式で高崎市医療介護連携相談センター南大類のHPから配信される。
・ 内容：市民の方々へ作業療法の紹介と、病院と地域の専門職間の連携を通して医療や介護サービスが提供される仕組みを知って頂くことを目標。内容として、各分野における高崎市の施設へ作業療法の仕事が見える静止画を提供していただく。また、地域とつながりを強くしていくためのアピールの場としても活用していくことを考えている。現在、依頼施設は選定中。高崎地域の施設へ募集をかけていく。
・配信期間：令和3年12月1日～令和4年2月28日
・メインコーナー：職業紹介と連携の見える動画や静止画の配信を実施
サブコーナー：フレイル予防体操動画（PT・STと連携して）

【審議事項】なし

2）北中毛ブロック［報告者：小此木］

【報告事項】

①とねぬまた医師会相談室主催研修会について
・ 概要：オンライン開催予定
・ 内容：協議中　講師は小此木予定
・ 日程：7月に開催予定であったが、医師会相談室の都合で11月予定

【審議事項】なし

3）東毛ブロック［報告者：今村］

【報告事項】

①伊勢崎市地域包括支援センター東よりセンター主催多職種協学事例検討会「あずまミーティング」への講師依頼が県士会長経由であり、講師選出行う。
講師確定：美原記念病院　石森卓也理事　2021.10.21
リモートでの開催
テーマ「共に支え合い、笑顔で暮らせる東地区」
講義内容に関してすり合わせ中。今後資料などを共有して行けると行政からの講義依頼時に対応を早める事が出来るので進めて行く。
【審議事項】なし

4．学術部［報告者：李］
【報告事項】
県士会における学術支援活動を行なった。
【審議事項】なし

1）学術研究グループ
【報告事項】
① 学術研究グループの勉強会を現在までに2回開催した。
② 群馬県作業療法学会の査読管理を実施した。
【審議事項】なし

2）学会支援グループ
【報告事項】
① 第23回群馬県作業療法学会の公文書作成の支援を行った。
② 群馬県作業療法学会のHP、Facebookの運営を行った。
【審議事項】なし

3）機関誌編集グループ
【報告事項】
① 2021年度機関誌、学会誌の準備中。
学会開催が10/31（日）のため9月末頃発行予定。
② 機関紙への投稿原稿は1編。現在査読中。
【審議事項】なし

5．運転と作業療法特設委員会［報告者：李］
【報告事項】
1）5月11日に群馬県警察運転免許課適性相談係と情報交換を実施した.
2）5月29日にzoomで世話人会を実施した.
3）6月02日に前橋自動車教習所と情報交換を実施した.
【審議事項】なし

6．養成校連絡協議会［報告者：高坂］
【報告事項】
1）令和3年度学生会員の募集を開始した。現在、約30名が会員登録を行っている。
2）現在、臨床実習指導者講習会(群馬県講習会)の準備を進めている。第1～3回で149名が受講予定である。
3）臨床実習の実情把握のため、学生向けアンケートの実施を検討している。
【審議事項】なし

7．地域作業療法推進部［報告者：高坂］
【報告事項】
1）地域包括ケア推進グループ
①5月21日、6月18日に会議を実施した。
②8月25日（水）「やりたいことを諦めない－夢を叶える外出支援の現状－」と題し、アクティビィティサポート代表南雲様に講師を依頼している。作業療法士と地域支援に関連する職種を対象にナイトセミナーを開催予定である。8月11日にzoomの体験会を実施予定している。
③令和4年1月29日に日本作業療法士協会理事佐藤孝臣先生を講師とし、地域ケア会議に関する中級者向け研修会を開催予定である。会場はたまごホールを使用し、対面式での研修を予定している。
④　6月23日日本作業療法士協会主催の地域支援事業に関する臨時研修会に当グループから5名が参加した。
2）認知症支援推進グループ
①5月24日に会議をWebで実施した。令和3年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業の研修会（全2回）はすべてWeb開催に決定した。
②7月27日に対面で会議を実施予定である。同日に第1回研修会のチラシ発送（県内事業所）作業も行う。
③第1回研修会のテーマは「認知症の基礎知識と笑顔を引き出す活動を学びケアのヒントを見つけよう」とし、大井戸診療所の大澤誠氏，群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課の高原きよ美氏、介護エンターテイメント協会の石田竜生氏から講師承諾が得られ、参加者募集等の準備を進めている。
④認知症の人の家族の会のつどいに部員が継続的（月1回）に参加し、参加している家族や家族の会スタッフとの意見交換やサービス利用に関する助言等を行っている。今後、部員による講座の開催や家族や当事者が利用できる資源マップづくり等を企画検討中である。
3）精神科領域推進グループ
① 7月5日付で群馬県障害政策課へ令和3年度群馬県地域自殺対策強化事業実施計画書を提出した
（申請額200,000円、補助額10/10）。
②5/24、6/30に会議を実施した。
③ 情報交歓会は年3回（8月、11月、2月あたり）でオンライン開催を予定している。第1回目は「コロナ禍での作業療法」、第2回目は「精神科作業療法の現状と今後」をテーマに実施する。第3回目のテーマは未定である。
④自殺対策研修会は11月下旬か2月にオンライン開催予定で、講師はこころの健康センターの佐藤所長に内諾が取れている。更に保健師の講師を検討中である。
4）発達支援推進グループ［報告者：勝野］
① 5月9日、16日、6月13日に保育士研修会講義資料係会議をオンラインで開催した。
② 5月23日、6月28日に保育士研修会Zoom係
会議をオンラインで開催した。
③ 5月13日定期勉強会をZoomで開催した。21名参加し、ASD児のスプーン操作について症例検討を行った。
④　7月4日　保育士研修会全体会議をZoomにて開催した。講義資料やワークショップ、タイムテーブルなどの概要について決定した。
⑤ 7月8日定期勉強会をZoomで開催した。23名が参加し、5月の症例検討のグループワークのまとめについて発表を行った。次回9月9日18：30～19:30で開催予定。11月21日（日）14:00～16:00にZoomで開催予定の保育士研修会の講義資料の発表および検討などを予定している。
【審議事項】
1）発達支援推進グループ
6月より発達GのInstagramを開設し、7月1日より写真を投稿開始している。テーマは『手先の器用さを育てる』発達を促す遊びやおもちゃ、運動遊具などについての写真を県内施設の発達Gメーリングリストに登録しているOTより募集し、月1回掲載を予定している。その他、県士会の一般向け研修会情報なども掲載していく。

商品名やメーカー名の掲載については理事会で検討後、決定する。(詳細は勝野理事より報告)
→　承認

8. POS連絡協議会訪問リハ部［報告者:小此木］

【報告事項】

5月に訪問リハ地域リーダー会議がありPOS連絡協議会の訪問リハ部OT代表で参加してきました。
今回の介護報酬改定で訪問看護の部分で人員配置など様々なことが議論されました。
3協会を中心として訪問リハ振興財団では令和6年の同時改定に向けて各都道府県の足並みを揃えて対応していかなければならないという話がありました。
その為、情報共有として各都道府県にアクションプランの作成の依頼がありました。
このアクションプランは群馬県(POS連絡協議会)で作成となっています。
資料のアクションプランはPOS連絡協議会のPTの新谷さんが作成したものとなっていますが、色を変更した部分はOTで追記いたしました。

【審議事項】

添付資料のアクションプラン内容を県士会の意見としてあげてよいか。

9. 群馬県作業療法士学会［報告者:村井］

【報告事項】

1)第4回　全体会議　日時:2021/07/13　19:30～
　場所:zoom会議　　参加者:実行委員25名

① 現状の進捗状況の報告
・日程表作成しました。内容に関しては今後補足しながら確定していく。
・日程表はHPにQRコードを貼付しダウンロードできるようにする。

②ポスター係より
・現状、たたき台は完成し後は細かいところの調整が必要。
・場所の記載に関して会場名を入れるのはどうするのか。
　‥現状の記載で問題なし。
・日時の下に開始時間の記載‥去年、一昨年を参考に記載する。
・QRコードの記載‥学会HP、事前参加受付フォーム、日程表、facebookの4つ
・ハイブリッドか完全webかどうするのか?
　…ハイブリッドで進めて。完全webでもできる様に準備している。
・顔写真の貼付はどうするのか?
　…人選して載せていく方向で進めていく。
・8月までに完成させて機関誌G長の糸井先生に送付する。

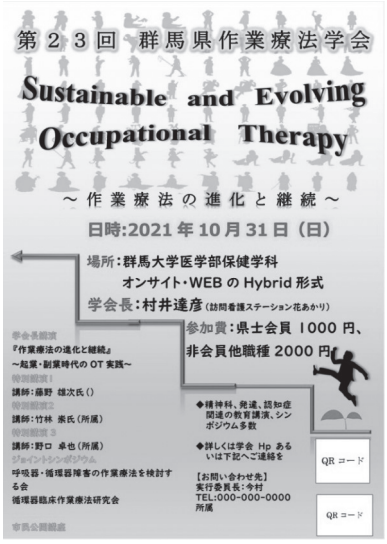
③公文書係から
・今後、学会名義のアカウントのGoogleドライブ上で抄録や公文書関係のやりとりをする。実行委員に送付します。

④ウェブ担当係から
・学会で使用するアカウントは、群馬大学の先生方のアカウントと協会既存アカウント(4つ)
・当日、Zoom操作を管理するスタッフは最低4人必要となる。
・講義は事前収録で当日流す方法で進める。先生によっては前日などに撮影を手伝う必要があるか。
・機材類(PCなど)は教育部での用意を検討中だが、概ね問題なさそう。カメラなどは不要か。
・質疑応答の時間については講義後にズームにてオンラインでつなぐか、後日取りまとめてメールで返答いただくか。
・参加者側へのマニュアルは、注意事項なども含めたたき台をWeb担当係の方で作成予定。
・参加費の振込後の名簿確認などは、事前受付フォームで確認。事前受付フォームの作成などは野口先生の方でたたき台を作成予定。

⑤その他
・公文書、抄録などは先生方に少し促せれば良いか。
・ポスターに掲載する顔写真は、選定後に学会長の方から問い合わせて頂ける予定。
・進捗が遅い。
・Zoomのやりくりについて教育部のものを取り入れていく。
・次回の学会長への引継ぎができるようにしていく。

【審議事項】

1)ポスターに関して、他職種は無料でよいのではないか?
→　他職種は無料方向で修正。



10. 福利厚生部［報告者:市川］

1)オンラインでの研修
福利厚生部長を中心として企画案を検討中。必要に応じて、他部署(広報部・養成校連絡協議会等)と連携して、情報を発信していきたい。

2)学会の優秀演題賞
今年度はオンラインでの学会発表となっているため、優秀演題賞は後日WEBで審査し、表彰状を所属先に郵送予定。学会での進捗状況を福利厚生部も確認できるように、実行委員会の会議に参加していく予定。

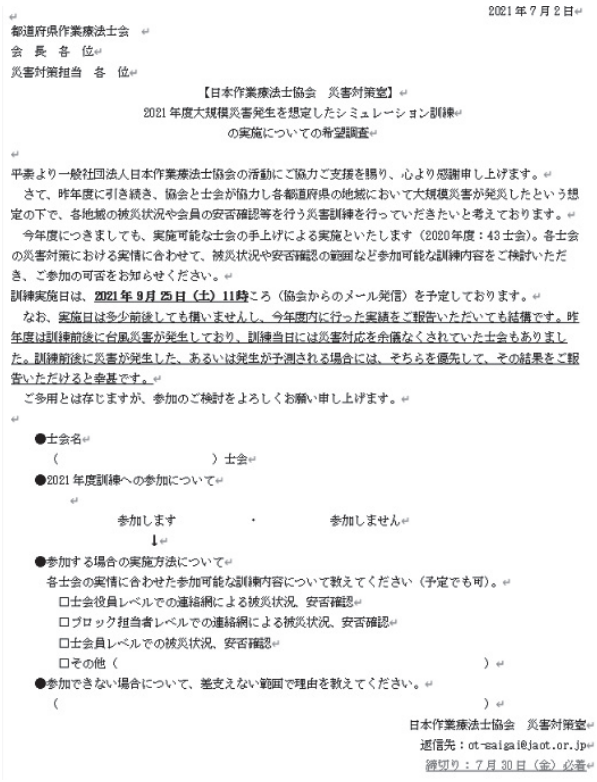
3)保険
OT協会の保険を県士会ニュースに載せていく予定。

4)RFL(リレーフォーライフ)について(別紙参照)
今年度は短時間(4時間程度)でのリレーウォークが予定されている。
所属施設によっては感染対策の観点から参加の許可が出ず、人員の確保に今まで以上に困窮する可能性あり

【審議事項】

・今年度のRFLの参加の是非について
・応援リレー動画2021の参加について
　→　他の動向を見つつ決定していく

11. 災害対応委員会[報告者:関根]



2021年7月2日

都道府県作業療法士会
会 長 各 位
災害対策担当 各 位

【日本作業療法士協会 災害対策室】
2021年度大規模災害発生を想定したシミュレーション訓練
の実施についての希望調査

平素より一般社団法人日本作業療法士協会の活動にご協力ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年度に引き続き、協会と士会が協力し各都道府県の地域において大規模災害が発災したという想定の下で、各地域の被災状況や会員の安否確認等を行う災害訓練を行っていただきたいと考えております。

今年度につきましても、実施可能な士会の手上げによる実施といたします（2020年度：43士会）。各士会の災害対策における実情に合わせて、被災状況や安否確認の範囲など参加可能な訓練内容をご検討いただき、ご参加の可否をお知らせください。

訓練実施日は、**2021年9月25日（土）11時**ころ（協会からのメール発信）を予定しております。

なお、実施日は多少前後しても構いませんし、今年度内に行った実績をご報告いただいても結構です。昨年度は訓練前後に台風災害が発生しており、訓練当日には災害対応を余儀なくされていた士会もありました。訓練前後に災害が発生した、あるいは発生が予測される場合には、そちらを優先して、その結果をご報告いただけると幸甚です。

ご多用とは存じますが、参加のご検討をよろしくお願い申し上げます。

●士会名
（ ）士会

●2021年度訓練への参加について

参加します ・ 参加しません
↓

●参加する場合の実施方法について
各士会の実情に合わせた参加可能な訓練内容について教えてください（予定でも可）。
□士会役員レベルでの連絡網による被災状況、安否確認
□ブロック担当者レベルでの連絡網による被災状況、安否確認
□士会員レベルでの被災状況、安否確認
□その他（ ）

●参加できない場合について、差支えない範囲で理由を教えてください。
（ ）

日本作業療法士協会 災害対策室
返信先：ot-saigai@jaot.or.jp
締切り：7月30日（金）必着

日本作業療法士協会 災害対策室

◆士会における実施内容◆

各士会における実施方法、内容は各士会の実情に合わせた方法で実施してください。災害発生想定についても、各自治体の災害防災計画等を参考に計画をしてください。

◆期 間◆

３日以内を目安（９月２８日（火）まで）に第１報で実施状況の経過報告をメールにてお知らせください。

最終報告を１０月末日までにお知らせください。第２報は最終報告時に一緒にご報告ください。

第1報：9月28日（火） 第2報および最終報告：10月25日（月）

◆報告方法◆

第１報の報告は、メールにて初動と実施状況の経過（何名中何名の返信があった等）についてご報告ください（メール返信のみで結構です）。第２報および最終報告は別添の実施報告書を作成いただき最終報告提出でご報告ください。

日本作業療法士協会 災害対策室

◆202年度 実施士会◆ ⇒ 43士会＋協会 参加表明あり

【①士会役員等の連絡網】 9
宮城県・群馬県・埼玉県・新潟県・石川県・滋賀県・京都府・奈良県・鳥取県

【②ブロック担当者等の連絡網】 2
島根県・佐賀県

【③士会員レベルでの安否確認】18
山形県・福島県・栃木県・東京都・神奈川県・富山県・福井県・山梨県・岐阜県・大阪府・兵庫県・和歌山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・長崎県・大分県

【④その他の方法】14
北海道（③④）・青森県（①②③）・岩手県（②③）・秋田県（④）・茨城県（④）・千葉県（①②③）・長野県（①②③）・静岡県（①③）・愛知県（①③）・広島県（①③）・高知県（①②）・熊本県（④）・宮崎県（①②③）・沖縄県（①②）

日本作業療法士協会 災害対策室

2021年度災害発生を想定した訓練の実施について

日本作業療法士協会では都道府県士会と協力し、各都道府県の地域において大規模災害が発生したという想定のもとで、各地域の被災状況や会員の安否確認等を行う災害訓練を実施いたします。

2021年度は、昨年度（2017年度は23士会、2018年度は37士会、2019年度は44士会、2020年度43士会）に引き続き実施可能な士会の手上げによる実施とし、各士会の災害対策における実情に合わせた訓練の実施をいたします。

◆訓練実施日◆

２０２１年９月２５日（土） 午前１１時ころ

◆訓練実施方法◆

協会災害対策室より、各地域において大規模災害が発生した旨のメールを配信いたします。各士会において検討いただいた方法（連絡網による被災状況確認や安否確認等）で訓練を実施していただき、結果を協会災害対策室メールまでご返信ください。

【報告事項】

今までOT協会の訓練へ参加してきた。

今年度は委員会で平時に何ができるかを話し合い実施したい。

【審議事項】

今年度OT協会の訓練への参加について

→ 参加しない方向で承認

12. 事務局[報告者:高橋]

【報告事項】

1）事務局員について健康上の理由で1年間の休職となる。HPにて周知しメールへの誘導を行う。

事務局員が留守の間、高橋の方で郵便物・電話等の対応をしていく。

2）行動交通費（活動費）について

【審議事項】

1）求人方法について

→ 会員・会員の知人等に求人広告をHPやニュースに入れてみる。

2）実際の移動がない状態で交通費が認められるのか？

→ 再度メールにて確認しメール審議とする。

群馬県作業療法士会傷害保険のご案内

群馬県作業療法士会では、県士会の活動やその活動にかかる移動（運転中など）で発生した事故に対し傷害保険に加入しております。
県士会の活動中事故にあわれた際は、できるだけ速やかに報告をお願いいたします。

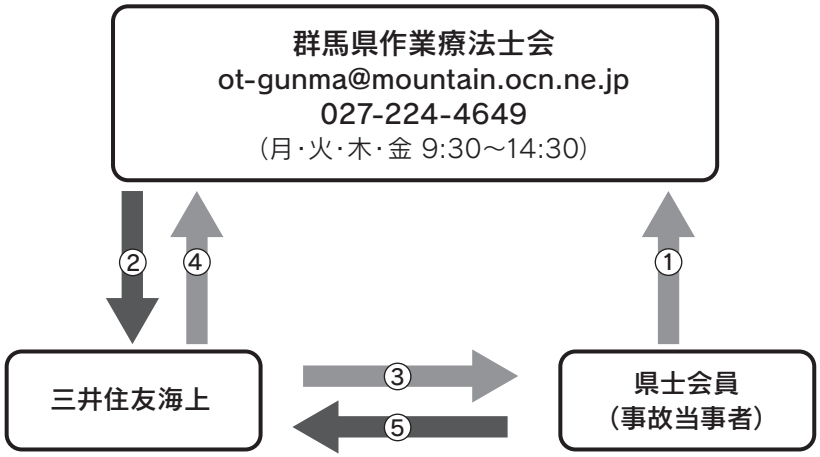
〈補償内容〉
・群馬県作業療法士会活動中に被った「傷害」を補償。
「傷害」とは、「急激かつ偶然な外来の事故によって身体に被った傷害」をいう。

○死亡保険金 :1,000万円
→傷害のため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡した場合、死亡・後遺障害保険金額の全額1,000万円を補償。
○後遺障害保険金:1,000万円に後遺障害の程度に応じた所定の割合を乗じた額
→傷害のため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に後遺障害が発生した場合、後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の4%～100%(40万円～1,000万円)を補償。
○入院保険金日額:1,500円(入院180日を限度)
通院保険金日額:1,000円(通院90日を限度)
→傷害の治療ため、事故発生の日から180日以内に病院・診療所に入院または通院し、日常の生活や仕事ができるようになるまでの治療日数を補償。
○手術保険金:入院中に受けた手術の場合…入院保険金日額×10
入院中以外の手術の場合…入院保険金日額×5

〈補償対象とならない主な事由〉
・被保険者、保険金受取人の故意または重大な過失による傷害
・自殺行為、犯罪行為、闘争行為による傷害
・地震、噴火、またはこれらを原因とする津波による傷害
・原因がいかなる場合でも、頸（けい）部症候群（いわゆる「むちうち症」）または腰痛で医学的他覚所見のないもの
・自動車等の無資格運転、酒気帯び運転または麻薬等を使用して運転している間の傷害
・脳疾患、疾病または心神喪失による傷害
・妊娠、出産、早産、流産または外科的手術その他の医療処置による傷害
・入浴中の溺水（ただし、急激かつ偶然な外来の事故によって被った傷害により生じた場合は、補償の対象）
・原因がいかなる場合でも誤嚥（えん）によって生じた肺炎　　など

保険請求の流れ

①事故報告
②事故内容の報告
③保険金請求書の送付
④事故証明の発行依頼
⑤請求書の記載・返信



※①の電話受付は、事務局の開設時間に限ります。
※メールにて報告された際は2週間以内に返信または請求書が届かない際はお手数ですが、群馬作業療法士会までお問い合わせください。

～令和2年度新人症例発表会
優秀演題賞受賞者の感想文です～

令和3年2月21日に開催された新人症例発表会で、41名の方が発表されました。初めてのZOOM開催で緊張感がありましたが、皆さんから新しい感性とOTRになって真摯に患者様に向き合う姿勢に勉強させていただきました。

ここで優秀演題賞受賞者の方々の感想文を紹介します。
6名の方々は、特にスライドや発表内容に優れており、ZOOMでも適切に質疑応答ができており、他の発表者にも活発に質問されていました。
今後発表される方々もぜひ活発に参加して頂いて、一人でも多くの方が優秀演題賞に輝けるよう願っております。今年度は9月26日開催予定です。

教育部担当理事　勝野　恵

この度は優秀演題賞を受賞できましたこと誠に光栄です。新人症例発表を通して私は領域の異なる先生方に助言を頂けたことが最も印象に残りました。各々所属する領域で関わるクライエントの疾病等は異なりますが、どの先生方も作業を中心とした介入を意識して日々の治療に向き合っておられることを助言より感じ、改めて作業の力を感じられたからです。今後も同世代の仲間と共に刺激し合いながら先輩方に積み上げて頂いた知識に何か味付けできるようなOTになりたいと思います。

群馬県立精神医療センター　岩田侑也

この度は、主催者の皆様にはコロナ禍においてリモートでの開催ではありましたが2020年度の新人症例発表の場をこのような形で設けて頂きありがとうございました。また、この様な賞を頂けたこと大変嬉しく思います。
担当させて頂いた患者様をはじめ、指導にあたってくださいました当院のスタッフ皆様のお力があってこそ頂けた賞だと思います。今後も患者様が笑顔になれるようなリハビリの提供を私らしくできるように日々成長していきたいと思います。

群馬リハビリテーション病院　下田加奈子

この度は優秀演題賞という素晴らしい賞を頂きとても光栄です。
賞を頂けましたのも、協力して下さった症例患者様はじめ、指導して下さった病院の先生方のお力添えのおかげと大変感謝しております。オンライン開催という形でしたが、他病院の先生方から様々な視点でのアドバイスを頂き、貴重な経験となりました。今回の経験を糧に、今後もより一層知識や技術を学びながら臨床に励んでいきたいと思います。

美原記念病院　井田成美

今回の発表をするにあたり、職場の先輩方、同僚等に相談させていただきながら作成した発表は、ただ臨床をする以上の価値があったと思っております。

またMTDLPを使用したことで一番重要であると感じた「症例の望む生活行為に合わせた介入」をこれからも意識しながら臨床を行っていきたいと考えております。

このコロナ禍のなか新人症例発表会を開催していただいたことに感謝し、当院、群馬県作業療法士会、患者様へ少しでも貢献できるよう研鑽していきたいと思います。

地域医療機能推進機構　群馬中央病院　秋場貴成

症例は美容師をしており、仕事での動作に関しては馴染みのないものでした。また、プロならではのこだわりがあり満足度が向上しにくく、素人目では障害を見つけ出しての介入が難しかったです。作業分析を行ったり、外来リハの都度どの場面で違和感が生じるか聞いたりと細かく患者様に寄り添ったことで、患者様のためにも自分の今後の勉強にもなりました。

最後に協力してくださった患者様やご指導くださった皆様にお礼申し上げます。

月夜野病院 羽鳥由利恵

この度は優秀演題賞に選出していただき誠に光栄です。今年の新人症例発表会は新型コロナウイルスの影響により、オンライン発表となり不慣れな環境でしたが、職場の上司・同僚と共に練習したことで緊張することなく発表できました。また発表会を通し、様々な方と意見を交えたことで、臨床での評価・介入の新たな視点を知ることが出来ました。

今回の経験を今後の臨床に活かして行きたいと思います。ありがとうございました。

本島総合病院　阿部爽香

施設紹介

医療法人社団美心会　黒沢病院

当法人は、高崎市矢中町にある黒沢病院が母体となります。法人の経営理念「良質な総合医療サービスの提供」をもとに地域貢献できるよう保健・医療・福祉・介護の各サービスが連携した事業展開を行っております。具体的に「黒沢病院」では透析センターの他、脳卒中センターを中心とした急性期医療の提供しております。「ヘルスパーククリニック」では、外来診療の他、人間ドッグ・健診を行う高崎健康管理センター、メディカルフィットネスValeoProによる予防医療と健康管理を行っております。介護分野は、「老健くろさわ」、「高崎東部福祉総合相談センター」（在宅系サービス）、「サ高住ラ・ビィオラ中居」、「介護付有料老人ホームカーサ・デ・ヴェルデ黒沢」にて地域医療を支える関連施設を有しております。

またCOVID-19流行に伴い、発熱外来診療・コロナ対応病棟、ワクチン接種会場が設置されました。一刻も早くコロナが終息するよう、今必要とされる医療を率先して提供しております。

当法人のリハビリテーション部は、黒沢病院　PT16名、OT10名、ST7名。老健くろさわ（デイケア・訪問リハ含む）PT12名、OT3名、ST1名。介護付有料老人ホームカーサ・デ・ヴェルデ黒沢OT1名PT1名。ValeoProPT1名の計52名で働いております。

当法人の作業療法は、医療での急性期リハビリと介護での維持期リハビリの二手に分かれて作業療法を提供させていただいております。病院は、リハ対象者の平均在院日数が、30.8日で、全体の7割を超える方が脳血管疾患です。発症翌日から退院までリスク管理に努め、ADL拡大に向けた支援をしております。また排尿ケアチームに属しており、院内患者様の早期B-T抜去、排泄動作の再獲得に向けた支援を行っております。介護の各施設では、サービス体系に合わせた様々な関わり方の中で、対象者の生活を支援し、介護予防に努めております。

当法人に、作業療法部門が開設されて12年。新卒から中途入職者まで現在14名の作業療法士が在籍中です。一人でも多くの方に良いサービスが提供できるよう、事業の拡大と質の向上が図れるようこれからも頑張ってまいります。

理学療法士・作業療法士 有資格者募集

業務内容：通所リハビリと入所でのリハビリ業務
勤務時間：月～金　9:00～18:00(休憩75分)
　　土曜　9:00～13:00(一日勤務あり)
給　　与：経験等考慮の上法人規定に準ずる
待　　遇：各種保険、退職金、賞与年2回(4.5ヶ月)
休　　暇：日祝、有給休暇、夏季休暇、年末年始
　　創立記念日、産休育休、介護休暇
応募方法：まずは電話にてお問合せ下さい　担当：岡田、岩田

医療法人三省会　介護老人保健施設　希望の苑
〒373-0829 群馬県太田市高林北町1138
TEL. 0276-38-1912

投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した･･･などなど、皆様からの投稿を
募集しております。
どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス：koha.yuu@yahoo.ne.jp
広報部･ニュース編集グループ
反町拓海

県士会ホームページアドレス
http://www.gunma-ot.org/

編集後記

今号でも引き続き、群馬県立障害者リハビリテーションセンターの高橋洋輔先生にご協力頂き、高次脳機能障害関連の記事を掲載させて頂いた．特に利用者様の願いとしての記事は臨床に当たる上で大変貴重な内容であり、皆さまにもぜひ参考にして頂きたいと思う。ニュースでは他機関や一つの領域、テーマに沿った内容など随時募集しているので会員の皆さまにニュースを通して知ってもらいたいことや伝えたいことなどがあればぜひ有効活用して頂きたいと思う。　S

群馬県作業療法士会ニュース

発 行 者‖新井　健五
発 行 所‖群馬県作業療法士会事務局　〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号　TEL･FAX 027-224-4649
編集代表‖反町 拓海　　編集委員‖関　仁紀、下田　幸、辻 千鶴子、大脇 宗雅　　印刷‖星野印刷株式会社